「シューマン歌曲の唱法と伴奏法の解釈」
第三報　詩人の恋（DICHTERLIEBE）

長　尾　洋　子

ま　え　が　き

前記要において，「リーダークライス，OP 39」と「女の愛と生涯」とを手がけ，続いてここに，シューマンの歌曲集の集大成ともいわれる「詩人の恋」を手がけてみた。シューマンについては，前記要に述べてあるので，ここでは重複は避けることとする。「詩人の恋」は，「女の愛と生涯」の作曲の後すぐ同年の1840年に作曲されたといわれるが，「女の愛と生涯」では女の愛の喜び，悲しみを歌ったのに比し，「詩人の恋」は，男性の愛の喜び，悲しみを歌ったものであり，前者程内容的なつながりは深くないがやはり一連のつながりを持っている。第6曲までは愛の喜びを歌い，第7曲から第14曲までは失恋の苦しみを，最後の2曲は過ぎ去った青春への追憶を描いている。旋律の美しさは前2曲集と同様無類であるがピアノ部の持つそれは一段と飛躍が伺われ伴奏のみですでに一つのピアノ小品をなすものもあり，詩の底に流れる魂までを心憎いまでに表現し，時には人間の二面的な感情を歌声とピアノで相反しつつ表現しながら詩と歌と伴奏を何の無理もなく心よく完全に融和させている。詩の推移につれて表すその明暗は，多様な感情を豊かに表現し，より繊細な感情の表現を何の抵抗もなくみせてくれる。これほどまでに，詩を音として歌いあげた作曲者が他にいるであろうか。シューマン歌曲集の三曲を研究するに及んでますますその感を深くし，その一体となった美しさには戦慄すら憶えるのである。

1.　美しい五月に（Im wunderschönen Monat Mai）

美しい五月には　花はみなほころび
わたしの心の中にも　愛は花開く
美しい五月には　鳥はみな歌い
私の思いを　きみに告げる

五月のさわやかな微風にのせて愛の芽生えの不安と期待を伝えている。伴奏と歌声はいずれがメロディーか決め難い程に融けこみ合い一体となって，同じ音型の伴奏を用いつつその上を短い歌声がおおった様な型になっている。伴奏の調のぼかしは，青年の愛の不安と甘い官能を感じさせ後奏の属7の未解によって未来への祈る様な気持がうかがわれる。

Adur，2/4拍子，ゆるやかにやさしく。前奏及びそれに続く伴奏は，温かく心こめてどこまでもやさしく柔かく奏さなければならない。最初のImは短かいがPではっきりと入り“Mai”(6)（かっこ中は小節数）は4分音符の長さを充分に保つ。“sprangen”(8)は発音を正しくはっきりと，“meinen”(9)から Cresc. するが激情するのではなくほのぼのと温かい表現になるように注意する。“aufgegangen”(11)も同様，2節目は1節目と全く同じ旋律であるが，不安と期待を持って高なる胸を静めつつ祈る様な気持で歌わなければならない。最後2小節は rit. して最後の小節は1つ1つ音を丁寧に弾く。

2. 我が涙より (Aus meinen Tränen sprießen)

我が涙より　花は咲きほころび
我がため息は　夜鶯の合唱となる
君が我を愛すなら　この花はすべて捧げよう
そして君の窓辺には　夜鶯の歌をひびかせよう

1曲目のやや高潮した気持から変って自分の心に語りかける様に歌う。前曲の終結の属7の和音がこの曲の最初の音で溶ける様に解決されていることにも注意したい。短かい簡単な構成の曲であるが感傷に落ち入ることなく内省的に歌わなければならない。

Adur, 2/4拍子，速くなくしかしひきずらずに歌う。語りかけるように歌いだし"sprie" (2)はアクセント気味に重みをもたせて，"vor" (4)は丁寧にはっきりと，曲中3回フェルマータが出てくるが胸中に収めるごとく余韻を残す。"undwenn" (8)から中間の部分はテンポを少し早めて曲をひきしめ，"Fenster" (13)は cresc. して多少気持の高ぶりを表し"Nachtigal" (16)は rit. してだれともなく呟くように歌い終る。後奏もフェルマータの後同様な気持で奏する。

3. ばら，ゆり，はと (Die Rose, die Lilie die Taube)

ばらよ　ゆりよ　はとよ　太陽よ　それは私の愛のよろこびであった
だが今は私は　それらを愛さない
私の愛は　かわいいひとりの人　彼女こそ私の愛のよろこびであり
私のばらとゆりとはとと太陽である。

愛する者への愛の喜びと自信に満ちた明かるい快活な青春を謳歌した歌である。

Ddur 2/4拍子　快活に。伴奏の右手と左手の交互に出る和音は，若者の喜びにふくらんだ胸のときめきを表すように短かく軽くはっきりと弾かなければならない。テンポが速いためまず歌詞を完全にマスターし，2/4拍子の拍子感を失うことなく明かるく歌わなければならない。"Ich lieb sie nicht mehr" (5)は少し強くはっきりと"その様なものは愛さない"と歌い次の"ich liebe alleine" (5)は始めのように軽くはずんで，"Rose "und Lilie" (11)は rit. して cresc. 気持の高揚を表すが決して激しすぎてはいけない。"allei" (13)のH音からE音はあっさりとテンポをおとさないで歌う。"die Eine"は rit. して Ei で cresc. し若者の興奮した気持をはっきりと歌い切る。しかし激した興奮ではなく，ときめく胸の幸福感をおえさつつ表現しなければならない。後奏は若者の胸のときめきをそのまま表現して a tempo で軽く最後の2音ははっきりと短かくmfで若者の興奮を告げる。

4. 君の瞳に見入るとき (Wenn ich in deine Augen seh)

君の瞳に見入るとき　悲しみはすべて消えうせ
君の唇にふれるとき　元気がみなぎる
君の胸にうずまれば　天に昇る思い
そして「愛す」と君ささやけば　私は泣いてしまうだろう。

前曲とはうって変って非常に内省的な詩である。シューマンはこの詩の美しさを強調するために旋律を短かく動きの少ないものにしていると思われる。よって詩の美しさを味わいつつ語りかけるように歌わなければならない。

Gdur 3/4拍子　ゆるやかに。前曲の後奏の明かるい mf の和音とは対称的に P で静かな

和音に始り，呟くごとく歌声に入る。“Augen” (2)のD音に深く心こめて軽いアクセントをおく。2小節目の伴奏後半は cresc. “Leid und weh” (3) は人に訴えるごとく深い表現で，“wenn ich küsse” は高揚した気持を充分表すべく “Mund” (6)へ cresc. して “Mund”でその頂に達しその後ブレス，“so werd'ich” (6)は一つ一つはっきりと “gesund” まで確信に満ちた愛をfではっきりと歌いあげる。“wenn ich” からは一転して静かな安らぎを憶えつつ，呟くごとくに内面の感情を歌わねばならない。しかしそれは完全なる安らぎでなく，時に胸を不安がかすめる。伴奏の短かいリズムはそうした安らぎの中に交錯する不安を表現しなければならない。“lehn'an” (9)は軽いポルタメントをつけ，“Brust” (10) の語尾をはっきりと“Kommt's” (10)は充分1拍の長さを保ち“über” (11)にも軽いポルタメント “doch wenn du (11)は一つ一つ噛みしめる様に不安をまじえつつ “sprichst” (12)に入る。この部分の伴奏右手は rit. しながらシューマン独特の叙唱風な響きを失うことなく表現しなければならない。“ich liebe dich” はさらにPで不安と共に呟くごとく最後まで静かに歌う。後奏の短かいリズムは不安を，長いリズムは安らぎを交互に表現しつつPで奏す。

5. 我が魂をひたそう (Ich will meine Seele tauchen)

我が魂を　百合のうてなに沈めよう　愛する人の歌を　百合は歌うだろう
美くしく幸福な時に　君が私に与えてくれた　あのくちづけのように　うたは震えるだろう。

前曲と同様内省的な歌であり，歌は狭い音域で歌われているが，この様な伴奏を用いたことにより若者の静かに震える胸中をよく表している。この曲は伴奏部だけですでにすばらしい小品であり，これがシューマンの目指す詩と歌とピアノの融和であろう。誠に美しい伴奏である。そのためには左手のアルペジオはあくまでも柔和に弾かなければならないし低音も意識して歌わせなければならない。また右手の旋律は歌声部のごとく豊かな表現が要求される。歌声は狭い音域で歌われているため呟くようにあくまでも柔かいアルペジオにのってレガートに歌わなければならない。

Hmol 2/4拍子　そっと柔らかく。最初から “Lleliehinein” までブレスなくレガートに歌い “hauchen” (6)で cresc. “Lied” (7)ははっきり音をもたせて “Das” (8)から旋律が繰返されるが1回目より少し強く “schauern und beben” (9)はわきあがるようにD音に向って深く歌う “ichrem Mund” (11)も同様 “mir einst (13)から旋律の上昇と共に歌声も激しやすいが表面的な表現は避け内省的な表現ができるように気をつけなければならない “gegeben” (13)で rit. “wunderbar” (14)は一つ一つ丁寧に “stund” で歌を終えることなく後奏に歌声の余韻をつづかせ，ピアノ部はしっとりと深い気持を充分表現するよう注意する。

6. 神聖なラインの (Im Rhein, imheiligen, strome)

神聖な河ラインに映すその陰は　大なる聖都ケルンに　そそりたつ偉大な塔
この御堂の中の　黄金の革に描かれし画像は　わたしの心をやさしく　明かるくてらす
聖母の像は　花と天使にかこまれ
その眼　その唇　その頬は　愛する人に　よくも似たることよ

ラインにその陰をおとし堂々とそびえ建つ大がらんを2分音符で表し，ラインのさざ波を付点4分音符と8分音符のリズムで表現している。伴奏部の2分音符は厳然とはっきりアクセントをつけ旋律を浮かばせると共に付点4分音符8分音符のリズムの旋律も決してゆるぎ

なく表現しなければならない。この伴奏部にのって歌声も伝統の偉厳にそびえる御堂の姿をfではっきりと歌わなければならない。

Emol 2/2拍子　かなりゆっくり。丁度チェンジの声域になるので苦しいがはっきりとfで"da spiegelt sich inden well'n" (5)はなお一つづつアクセントをつけてはっきりと，2節目も同様"heilige" (14)の下音は充分気をつけて"Cöll" (15)にはっきりと入る。ここまでfをおとすことなく堂々たる姿を歌い上げる"ImDom" (16)からは御堂の中へ入り聖母マリアの像に向って話すがごとく清楚なレガートで，"Bildnis" (19)でブレス"goldenem" (20)の"denem" "Ledergemalt"の—derge—の発音に気をつけて"malt" (21)は音符の長さいっぱいに保って，"in meines" (23)からcresc.して—bensの16分音符は正しく丁寧に"wild" (25)は少し強くritして"—ein.gestrahlt (26)もテヌートして入る。間奏の右手のリズム，転調に注意して"Es schweben"からもレガートにPで，"unsre" (34)のreのE，F音はむづかしいがスラーをかけ丁寧に"die Augen" (36)の下降音はレガートに思い出すがごとくやさしく，次の節も同様"die gleichen" (40)でcresc."Liebsten" (41)はrit.しあくまでもレガートに，その後の後奏2小節までは歌声の余韻のまま，3小節のE音より再び堂々たる御堂を遠くから眺めた気持ではっきりとfで右手左手共に各々のメロディーを浮かばせて弾かなければならない。この曲はこれまでの曲に見られた心理描写ではなく立体的な風景描写によってその中に強い愛を訴えている。

7.　我は恨まじ (Ich grolle nicht)

心はくだけ散ろうとも　私は恨まない
永遠に失われたる恋人を　私は恨まない
君の姿は　宝石のごとく輝けども　　君が心の闇は光もささない
心はくだけ散ろうとも　私は恨まない
私は夢の中に見た　君の胸の暗闇の中にむしばむ蛇を
愛する人よ　うつろな君の心　私は恨まない

この歌曲集中の失恋の歌8曲の中でこの歌程失恋の痛手を激しく暴露して訴えている歌はない。暗く閉じこもって考えるのではなく，恋人の裏切りに対して怒りと，恨みの感情すらまじえて苦しみもだえている青年の姿を歌わなければならない。

Cbur 4/4拍子　速くなく。伴奏は和音の連打であるがそれは青年の抑さえきれぬ興奮した感情を表現しているのでなければならない。最初の右手の和音はアクセントをはっきりおいて，後2拍各に興奮した青年の鼓動を刻む様にアクセントをつける。"Ich grole" (1)はリズムをはっきりmfで入る"Herz" (2)は抑さえきれぬ感情を吐き出す様に重く"ewig verlor'-nos Lieb" (5)は歌詩歌型共に同様なものが2回続くが2回目でcrese.に持っていき—lornes (7)のE音にぶつける気持で怒りにも似た感情を表現する。"Ich grolle" (9)からは自分の気持を静め2回目の"Ich grolle" (11)にかけてdecresc. g音からF音はrit.する。その後の伴奏左手のE音は，またしても突然怒りが込上ってくるようにはっきりとfで，"Diamanten" (14)の付点8分音符，16分音符のリズムは，はっきりとアクセントを持って強く，伴奏のFis音もf."Herzens" (16)も激しく強く。ここまで"wie du auch" (12)から似かよった旋律の短かいフレーズが幾度か重なっているが，重なるごとに感情も激しく遂に"da weis ich längst" (17)でその頂に達する。"da weisin"はrit.して暗く断腸の思いで"längst"に入る。g音はfで充分長さを保って，伴奏はだんだんとcresc.をかけE音の左手ではっきりとf，最初の旋律が繰返される。"ich sah dich" (23)はPで激しい思いを静め"und sah

die" (24)からまたもやむらむらと起こる怒りに似た感情にのせて cresc. そのまま "die dir am Herzen frist" (28)まで激する感情を表現し "ich sah mein" (29)は rit. して救い難い感情を "du elend bist" (30)にかけてじっくりと歌う。終りの "Ich grolle nicht" (32) 2回はそうした感情を切り捨てる様に f ではっきりと歌いきる。伴奏の左手ははっきりと，後奏は興奮した若者の気持を表すべく cresc. し f で，最後の三和音は恋の終止符を自分にきっぱりといい聞かせる様に短かく鋭く弾く。

8. もし花が知ったなら (und wüßten's die Blumen, die Kleinen)

この心の傷つきを　もし花が知ったなら　私の苦しみをいやそうと　一緒に泣いてくれるものを
私の胸のうれいを　もし鶯が知ったなら　楽しげな歌を　うたってくれるだろう
私のこの苦しみを　黄金の星が知ったなら　高い空から下りてきて　私を慰めてくれるだろう
だがそれらはすべて　私の悩みを知らない　私の苦しみを知るのは唯一人
それは　私の心を破りくだいた　あの人！

怒りと恨みに似た激しい感情はやがて深い悲しみに変っていった。旋律は絶えず下降し悲しみを表現している。 Amol. 2/4拍子。この曲はまた何と難解な曲であろう。歌声はいつもE音F音から下降し短かいその音を sot voce で出すことは容易ではない。相当の練習が必要である。前曲の様に f で思いを暴露するのではなく P で深い悲しみを抑さえて歌わなければならない。伴奏は速いトレモロであるが震える悲しい胸中を表す様に P で粒の揃った音色と，音から音へのレガートな進行が要求される。これまたなかなか困難なことである。同様な旋律が3回繰返されるが各節の終りは rit. する。4回目の最初の旋律は転調しているが伴奏右手のA，F，D音の旋律及びG，E，C音の旋律ははっきり浮かばせる "schmerz" (28)までは深い悲しみに沈み苦しい思いを抑さえているがそれは遂に爆発して "sie hat" (29)に入る "siehat jaselbst" は f で突き上る抑さえきれない苦しい気持を f で "rissen" (30)はアクセント強くはっきりと。"zerrissen mir das Herz" (31)も rit. して f のまま一つづつはっきりと Herz まで歌いきる。後奏はその気持を受けついで最初の音は sf で左手の旋律右手の三連符共にはっきりと激情的に奏す。

9. 鳴るはフルートかヴァイオリンか (Dasist ein Flöten und Geigen)

鳴るはフルートかヴァイオリンか　それにトランペットも鳴りひびく
踊るは結婚の輪舞　私の恋する人の婚礼
とどろき響くは　太鼓か牧笛か　その間にすすり泣くのは　小さき天使たち

打ちふさがれた若者をあざ笑う様にピアノ部は最後まで同型の旋律とリズムで執ようについてくる。左手の小刻みなリズムの連続は若者とは関係のない違った世界を若者にわざと見せつけているようで若者の気持をますます追いやってしまいそうである。恋人の婚礼を遠くから眺める若者に対して，この様な伴奏をシューマンがつけたことは心憎い限りである。一寸作品2のパピョンを思わせる様なこれだけで充分一つの作品といえよう。歌声はそうした伴奏にのって思考力をなくしたうつろな若者の呟きを高く低く歌っている。

Dmol 3/8拍子　速くなく。伴奏左手の短かいリズムは重くならぬ様軽く，歌声もテンポに遅れぬ様充分伴奏にのってはっきり mf で入って，"Geigen" (7)はアクセントをつけ "Sch-

mettern darein" (10)のリズムは激しく f ではっきりと，繰返しの歌詞にも同様の気持を続けて，"datanzt wohl" (20)からPにし "die Herz" (25)に向って cresc. 2回目の "die Herz" (29)は茫然と眺めるごとく mp で，間奏はそうした失意の若者をよそに f ではっきりと弾き最初の旋律に返ってP，"Klingen und" (40)のリズムをはっきりと，2回目の das ¡stでf，"Dröhen" (45)でおときずそのまま "Schalmein" (48)の schal にはっきりアクセントをおいて歌いきる "dawischen" (55)からは放心した様に歌う。伴奏はまた一段と大きく若者の気持を追いつめるように accell. ぎみに奏し最後の5小節は f からPにずっと dim し左手の旋律はPになってもはっきりと若者の気持を無情に追いやる様に弾く。

10. 私が歌を聞けば (Hör ich das Liedchen Klingen

昔愛した人の歌った歌をきけば　苦き苦悩が押しよせ　私の胸ははりさける思い
暗い思いにたえかねて山へ登れば　涙を流してこの苦しみを溶かしてしまいたい

この詩にシューマンは民謡風な単純，素朴な旋律をつけることによって返って胸中深くいつまでも残された消し難い悲しみを表すことに成功していると思う。歌声のみならず伴奏部だけで充分に失恋のピアノ小品であろう。この至上の美しさを持つ伴奏に失恋の痛手を時が解決してくれたとはいえ，ふっと思い出しては救いようのない悲しみに陥っていく若者の呟きを素朴に歌声にのせている。

Gmol，2/4拍子　ゆるやかに。伴奏左手の旋律は歌声に対して暗く浮かばせながら追憶するかの様に奏し呟くごとく "Hörichdas" に入る。歌声は決して力まないで内省的に追憶にふけり涙する若者の姿を歌わねばならない "So will mir" (9)から "wilden schmer zendrang" (11)にかけて昔の傷を思い出した様に幾分興奮して cresc."treibt mich" (13)はレガートに "hinauf (15)の B 音から ES 音の下降もポルタメント気味に柔かく "sich aufin Tränen" (17)は rit. して込上げてくる静かな涙を素直に受け入れる気持で歌い終る。後奏は深い悲しみにじっと耐えて動かぬ若者の姿を歌声以上に表現しなければならない。終り7小節目からは f で右手の低音をはっきりだし，もう一度過去の古傷を思い出した様に cresc. して左手の和音にぶつかる。後，静かなあきらめを持った悲しみで rit. しながらPで奏す。

11. 若者は娘を愛し (Ein Jüngling liebt ein Mä ¡chen)

若者は娘を愛し　その娘は他の男を愛した　この男はまた他の娘を愛し　その娘と夫婦になった
先の娘は腹が立って　行きずりの男を夫にしたそうな　始めの若者はあわれなことよ
これは昔の話だが　いつの世でも新らしい　こんな話が自分に起ったら　心は張り裂けてしまうよ

これは今までの主観的な詩ではなく，皮肉たっぷりなユーモラスな客観的な詩である。したがって演奏も客観的にユーモラスにその諷刺を物語らなければならない。

Esdur　2/4拍子　テンポは指示してないが Allegllo ぐらいの陽気な速さがよいと思う。伴奏のシンコーペーションはこの曲の特徴でもあるからアクセントをつけユーモラスに明かるく弾かなければならない。この気持を失わないで歌声は流れることなくリズムを明確にアタック気味に歌う。短かい音符の子音も充分注意すること。"ersten besten" (19)から cresc. し der (20)はアクセントをつけはっきりと "der jüngling" (24)から rit. しPで同情的に歌う "Es ist" (26)から再び f ではっきり，1オクターブの下降躍音を陽気に "inmer neu"

(28)まで "wem sie just" (30)から rit. しつつ cresc."entzwei" (32)は f で大きな乾いた様な気持で歌う。後奏は a tempo でますます調子づき陽気に皮肉たっぷりと,最後7小節は accelle. 気味に cresc. し主和音を f であざ笑うごとく三度重ねる。

12. 輝く夏の朝 (Am leuchtenden Sommer morgen)

輝く夏の朝に　庭を歩けば　花はささやき語れども　私は黙って歩む
花はささやき語りかけ　私を気の毒そうに眺め　「私の姉を怒らないで　悲しそうに蒼ざめた人」

さわやかなすがすがしい夏の朝の庭をそぞろ歩きながら，清かな気持で失恋の思いを噛みしめている若者の姿を歌っている。

Bdur 6/8拍子　かなりゆっくり。伴奏の下降分散和音はいかにもシューマンらしい美しさに満ちており，あくまでも清楚に柔らかく弾かなければならない。4分音符の持続音は幾分保って充分気持を込めた音で，歌声は激することなくしみじみと歌う。"Am leuchtenden" (3)は重く暗くならないで軽く清らかに，B音に入ってから cresc. この後間奏の ges 音ははっきりと前奏同様，右手のアルペジオの最初の音は少し保って "Sprechen die" (8)の ces 音 Des 音は一音一音保ちつつ丁寧にレガートに Blumen (9)に入る。この Des 音から Ces 音の下降は柔かくレガートに，ces 音は音符の長さ一っぱいに保つこと。2回目の旋律も同様清らかにしみじみと歌い，michan (16)で cresc. "sei unsrer" (17)から指示のごとくより遅いテンポで自分に話しかけるように，böse (18)のA音から C 音への上昇はレガートに trauriger (19)から rit. して blasser (19)のC音を保って丁寧に mann (20)に入る。後奏はそのまま若者の無言のそぞろ歩きの続いている様にその余韻を持ち続けなければならない。後奏後半のアルペジオの上に流れる旋律は軽く，ただしはっきりと浮かばせるよう気をつける。

13. 夢で私は泣いた (Ich hab'im Traum geweinet)

夢で私は泣いた　君が墓にある夢をみて　目ざめても　私の涙は頬を伝って流れた
夢で私は泣いた　君はなほ私を愛すと夢みて　目ざめたら　なお涙は頬を伝いとどまらず

夢から覚めきらない頬に涙のあとを残したうつろな気持で呟く様に歌う。その歌声の合間に簡単な和音を入れただけの効果はこの詩を表現するに充分である。そして静かなつぶやきの最後に溢れる涙を sf の和音で受止めている

Esmol, 6/8拍子。そっと呟く様に "ich habim", cresc. して weinet (2)の ces 音に重みを持たせてから decresc. その呟きを受けうなずく様にPで間奏，"mirträumte (5)もうつろな気持で "ich machte" (7)から虚空に何かを握むように cresc. 突上げるごとく Träne (9)にもっていく。"flos noch" (10)から rit. し decresc. "herab" (10)の her- は音を保って -ab に入る。2回目の "Ich habim" (12)は最初と同様 "rerliesest" (16)は rit. して音を保ちつつ mich (17)へ，"ich wacht duf" (18)からせき込んで cresc. "noch lange" (21)から夢の興奮を抑さえるように rit. しlan-, ter- を充分保って歌う。間奏は苦しい夢を思い出すように cresc.decresc. "Ich hab'im" (25)から ppでうつろにだんだん苦しい思いがのし上ってきて wärst (27)に重くアクセント rit. しつつ "Ich wachte" (28)からずっと cresc. 高ぶる気持をそのまま最後の "Tränenflut" へじりじりと持っていき，苦しい溢れる涙を受止めてfで歌いきる。sf の和音をはっきり，沈黙の後 ppで今だ静まらぬ胸の鼓動をつた

える。興奮の後の苦い静寂があるのみ。

14. 夜ごとの夢に (Allnächtlich im Traume)

夜ごとの夢に君に会えば　君はやさしく私に話しかける
美しき足もとにひれふし　私はすすり泣く
君の目は悲しげに　金髪をふるわせ　真珠の様な涙はあふれる
君はささやきつつ　糸杉の束を私に与えたが
覚めた時には糸杉はそこになく　君のことばも消え失せていた

前曲と同様恋の甘い悲しさを歌ったもので短かいとぎれとぎれのフレーズを重ねているが，伴奏に特徴あるリズムを使うことによって今だ安らがぬ若者の苦しみの遍歴が表れている。

Hdur，2/4拍子，テンポは指示していないがかなりゆっくりなテンポで。"Allnächtlich" (1)を柔かくレガートに入る，8分休符は大切に余韻を残した切り方をする "dich freundlich" (6)まで同様な歌い方 "freundlich" (7)は rit. してレガートに grüsen (8)へ入る。"laut aufweinend" (9)から3/4拍子になり少しテンポ早く，cresc."deinen süsen" (10)はrit.し柔かく "süsen Fusen (11)は暗く歌い込む。2節目は1節目と同様，3節目はずっと pp でレガートに "cypressen" (34)は大切な言葉であるから強調して，"ich wache auf (34)は驚きと共にせきこんで "und der straus (35)から cresc."worthab" (37)を山に rit.decresc. "Vergessen" (38)はゆっくり溜息のごとく歌う。

15. 昔話の中から (Aus alten Märchen)

昔話の中から　白い手がさし招く　魔法の国のことごとを　歌うひびきが聞こえてくる
金色に輝く夕映えに　ひかり輝く花々は　花嫁のごと美しく　花におうあの国よ
みどりの木々の歌う歌は　昔のなつかしいふし　風の中に歌はひびき　鳥もともにうたう
大地の中からわいたのか　霧のかきたる絵の美しさ　この絵の中で楽しそうに　歌いつ踊る
木々の枝にも葉の上にも　青い火花が散りあって　赤いほのほともつれあい　狂おしくも舞いつづける
大理石の岩間より　泉はこんこんとわき　さわやかな小川の水面に　美しき色きらめく
ああ！　その国へ行けたなら　心楽しませ悩みを流し　幸に酔えるものを
ああ！　天国よ　幾度か夢にも見し　されど朝日の昇るとき　すべてはむなしい泡と消え去る

若者は苦しくもかつ楽しかった青春をおとぎ話にのせて回顧している。

Edur　6/8拍子　生き生きと。前奏はいかにもシューマンらしいリズム旋律であり，明かるく多少の興奮をもって奏するとよい。"Ausalten Märchen" (9)は陽気に明かるくはずんでリズムにのって歌いだす "da singtel" (12)はmpにして後 cresc. "wobunte Blumen" (17)から幾分おどけて発音をはっきりと楽しく，間奏は転調して前奏の旋律を再び明るく f で奏す "und grüne" (27)からレガートにのびのびと "Lüfte" (33)から cresc. "schmetten" (35)でfにもっていく，間奏は再び明かるく f でダイナミックに。"und laute Quellen" (57)からは旋律の不規則な変化に気をつけて cresc. ついに "Ach" (66)で絶叫してしまう。f でこの長さ一っぱいに。2回目の "Ach" は1回目と意味を異にしてそれを拒否するように mp

で。伴奏は rit. して "Ach Könnf'ich" (70)から指示通り哀願するような気持でレガートに果てしない幻想の世界に向って柔かく，"die Morgen" (94)から cresc. 伴奏の和音もsfで夢から酔めるように現実に帰って呟くごとく悟った気持を歌う。wieeitel (102)は Adagio で一音づつ丁寧にレガートに。あきらめの世界から後奏は𝄐を充分保ってから a tempo で明かるく陽気な果しない幻想の世界へと返す。

16. いまわしい昔の歌 (Die alten bösen Lieder)

いまわしい昔の歌や　いやな夢を　大きな柩に入れてしまおう
その中に入れる品々は　今は話せない　かのハイデルグの樽よりも　なほ大きな柩よ
固く厚い木で造った柩台は　あのアインツの橋よりも更に丈夫で長くあれ
12人の巨人を呼びよせよ　ラインの河畔ケルンにそびえ立つ　あの大寺にある聖クリストフのように　力ある巨人たちを
彼等にこの柩を運ばせ　大海の中に沈めてしまえ　大きな柩には　大きな墓を作ろう
さてその柩は何故に大きく重いのか　我が恋と苦しみを収めたからだ

これまでの愛の苦しみ，喜こびを海へ沈めてしまうことにより，忘却の世界に美しさを見出そうとする若者の姿を，シューマンはこの歌曲集の結びとしている。

cismol　4/4拍子　かなりゆっくり。最初の和音は重くはっきりと奏し続くユニゾンの旋律もリズム正しく ff で若者の断固としたあきらめの決意を表すように。歌声もマルカートに語調はっきり f で歌わなければならない。伴奏は苦しい若者の気持とは対称的に同型のリズムを繰返すことにより強がる若者をあざ笑うごとく皮肉に，面白おかしく例話を表現している "Hinein" (12)から少しおとしてレガートに "der Sarg mus" (15)から再び f でマルカートに，旋律は一音づつ上昇し "und holt" (20)から少しやわらかく "duch mus" (24)からまた f ではっきりと "und holt mir" (28)から話すようにおとしてレガートに "als wie der (32)から再び f "pie sollen" (36)から伴奏型が変り3拍目の和音にアクセントをおいてはっきりと，歌声も一つ一つアクセントをおいた歌い方 "senken ins" (38)は rit. してねばりこくG音に気おつけて，間奏の和音はsfで鋭く "denn solchem" (40)から a tempo でやはり鋭く "grose.s Grab" (42)で rit.その後の伴奏は f から急に decresc."wisst ihr" (44)から4小節は暗くPで "sein ich" (47)のC音からC音への上昇はPでポルタメントをつけてC音に上昇したところでブレス "ich senk't" を続ける。ここから Adagio であきらめに似た落着いた気持で明かるささえ持ってレガートに歌う。その後に続く後奏は，一人の若者の苦悩の果てに到達した無情の境地を表し至上の美しさを持っている。が続く異った旋律の出現によってさえぎられ回顧の中に全16曲を閉じる。